

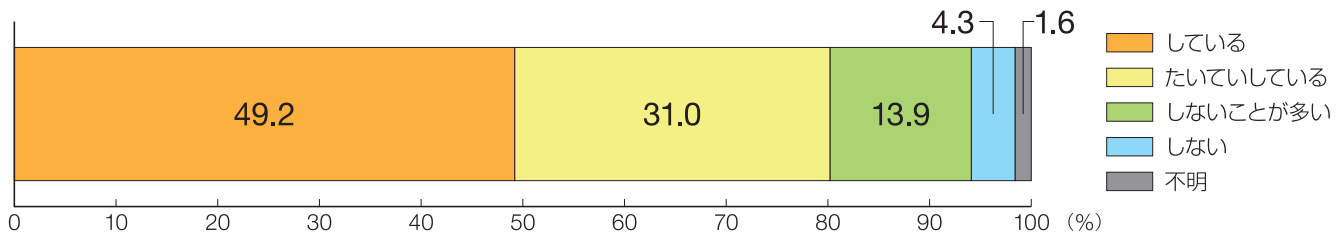
1

お子さんの学力向上と関連の深いものとは？

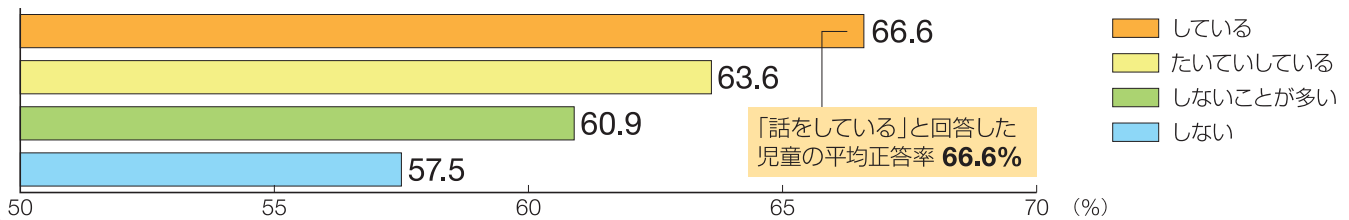
平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 児童質問紙調査の結果から

家庭では、家の人と学校や社会の出来事について話をしている児童ほど、平均正答率が高い傾向がみられます。

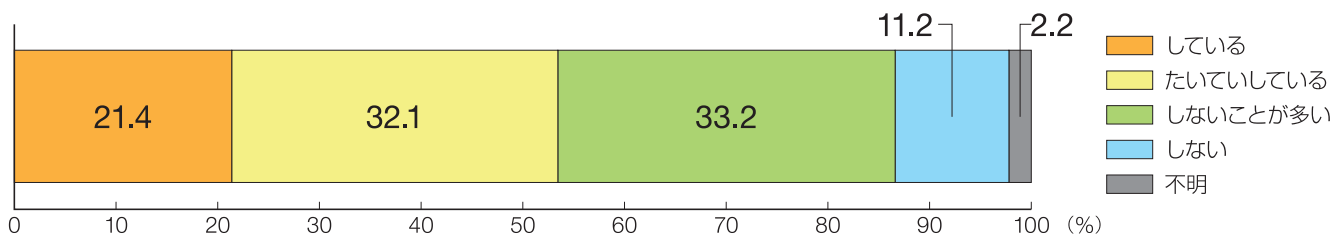
「家の人と、学校の出来事について話をしていますか。」という質問に対する児童の回答の割合



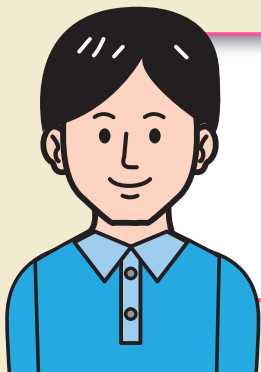
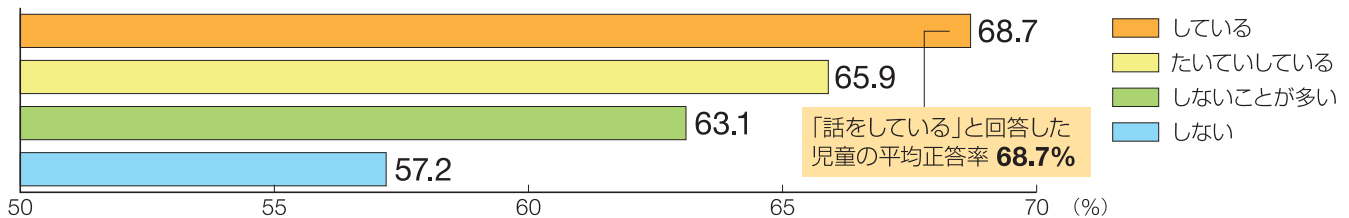
回答ごとの学力調査(4教科全体)の平均正答率



「家の人と、社会の出来事について話をしていますか。」という質問に対する児童の回答の割合



回答ごとの学力調査(4教科全体)の平均正答率



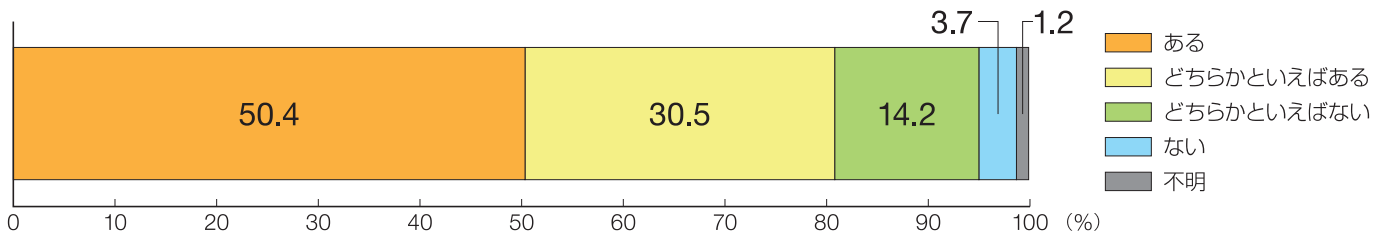
この結果を見ると、家の人と特に社会の出来事について話をすることが、学力向上を図る上で大切だということが分かります。学校や社会の出来事について話をすることを通して、学習したことを再構成することにつながると考えられます。



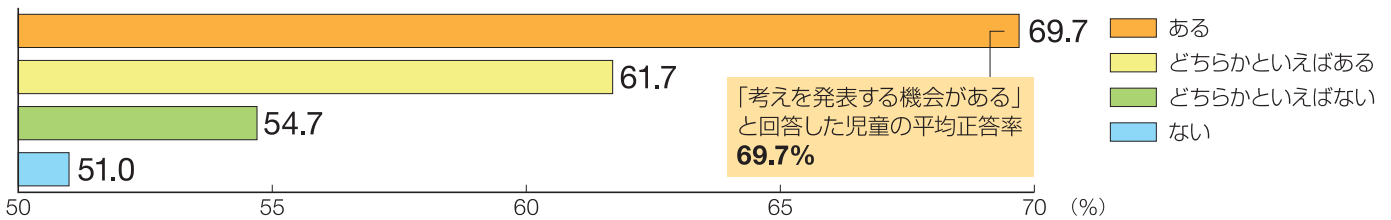
中のページには、お子さんの学習を家庭で支援する取組例を示してあります。ぜひ御覧ください。

小学校の授業では、自分の考えを発表する機会がある児童ほど、平均正答率が高い傾向がみられます。

「自分の考えを発表する機会がありますか。」という質問に対する児童の回答の割合



回答ごとの学力調査(4教科全体)の平均正答率



回答ごとの学力調査(教科ごと)の平均正答率 ()内は平成29年度の数値

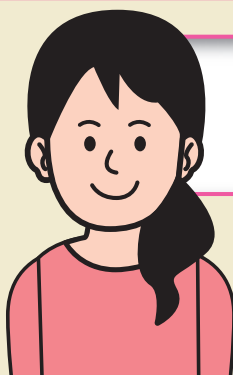
自分の考えを発表する機会と平均正答率との関係	平均正答率(%)			
	国語	社会	算数	理科
ある	71.1 (74.4)	74.9 (76.5)	58.6 (65.9)	74.3 (76.3)
どちらかといえばある	63.0 (66.6)	66.7 (69.4)	49.5 (57.8)	67.6 (69.9)
どちらかといえばない	55.6 (60.2)	60.2 (62.3)	41.7 (50.6)	61.4 (64.3)
ない	52.9 (56.1)	55.0 (55.4)	38.3 (43.1)	57.9 (59.0)

「考えを発表する機会がある」と回答した児童の、教科ごとの平均正答率

国語	71.1%
社会	74.9%
算数	58.6%
理科	74.3%

「ある」と「ない」の差	18.2 (18.3)	19.9 (21.1)	20.3 (22.8)	16.4 (17.3)
-------------	----------------	----------------	----------------	----------------

「考えを発表する機会がある」と回答した児童と、「ない」と回答した児童の教科ごとの平均正答率の差



具体的には、どのような話をして、何を考えさせて、どのように表現させればいいのかしら。